

図書館のねずみ

～Rat de bibliothéque～

YOSAKOI ソーラン

第30号

発行日：6月16日
発行：北海道岩内高校図書局



6月になり、岩内高校でよさこいの季節になりました。

そこで今回は、毎年札幌市で行われている『YOSAKOI ソーラン祭り』について調べてみました！！

よさこいとは？

高知で生まれました。

概要としては手に鳴子を持ち、チームごとにオリジナル衣装を着て、地元の伝統民謡などをアレンジして曲に合わせ、ステージ形式やパレード形式で、集団で踊るというものです。

YOSAKOI ソーラン祭り

1992年、北海道で高知県のよさこい祭りと北海道のソーラン節を混ぜて今、私たちの知る『YOSAKOI ソーラン祭り』となりました。第1回目の参加チームはわずか10チームでしたが、年々参加者、観客動員数が急速に成長し今では『さっぽろ雪まつり』に次ぐ札幌のイベントになりました。(2年 照井)

殺人鬼フジコの衝動

作者/真梨幸子

後味の悪い、背筋の凍るような作風で有名なミステリー作家“真梨幸子”的代表作。

一家惨殺事件で唯一生き残った11歳の少女は、過去を忘れて新たな人生を歩んでいた——だが、彼女の人生はいつしか狂い始める。何がいたいけな少女を伝説の殺人鬼にしてしまったのか？

「人生は、蕃薇色のお菓子のよう。」

呟きながらまたひとり、彼女は殺す。

最後の一言を読んだ時、きっと貴方は全てを理解するはず……。

(2年 高橋 萌)

三国志

作者/横山光輝

今から約1300年前、現在の中国は後漢という王朝の時代だった。しかし、黄巾賊が出没し、世は物騒になっていた。その中で樓桑村に住んでいた劉備は百姓だったが、実は漢の帝の血を受け継いでおり、国のために立ち上がった。そこに並はずれた怪力を持つ一騎当千の武将の関羽や張飛が加わり、さらに軍師には、人智の及ばぬ天才で赤壁の戦いでも不思議な術を使って、大風を起した諸葛亮を迎え入れ黄巾の乱の後、天下を奪い、我が物顔の曹操に対抗するために現在の四川省成都に蜀を建国し、漢の天下を取り戻そうとしていく。

(2年 星野)

ここで「三国志」と呼ばれる本は、2つあり、1つは歴史書である「三国志」。もう1つは大衆向けにわかりやすく時には史事にないことを書いた小説の「三国志演義」がある。この本の元になり日本でよく知られているのは、「三国志演義」である。

木田金次郎美術館館長さんインタビュー

先日、木田金次郎美術館の館長さんへインタビューに伺いました。雨が降る中、明るい笑顔で迎えてくださった館長さん。噂の“読書家”的な読書事情とは、一体どのようなものなのでしょうか。

オススメの本や作家について尋ねると、今話題のものはやはり読まれるそうです。作家では「東野圭吾」や「有川浩」など、私たちにも馴染みある名前が上げられました。最近の作品では『舟を編む』や『天地明察』、映画化等で話題にもなった『永遠の0』も面白かったとのことですが、次から次へと上げられるタイトルや感想に、局員はついていくのに精一杯（苦笑）。

月に10冊は読まれると言うお話に、納得です。さて、話題の本と言えば、昨年の「本屋大賞」にも選ばれた『海賊と呼ばれた男』。実はこの作品は、館長さんにとって特別な思い入れがあるようでした。なんと、小説に登場する会社の“副社長”と、小さい頃にお会いしたことがあるというのです。作品中にその方が出てきた時は、「歴史だ！」と思われたそうです。他にも、館長さんはとある作品に登場したことあるとか…！ロマンを感じますね。

さて、次にお聞きしたのは、印象深い作品について。幼いころに親しんだものに『西遊記』が上げされました。そのことをきっかけに、大人になってから「シルクロード」を歩いたこともあるそうです。

最近の悩みは蔵書を整理したいのになかなか手が回らないことだそう。家にあふれかえる本…羨ましいです。

今の高校生にお薦めの本についてもお聞きしました。具体的なタイトルは上げられなかったものの、一つだけアドアイスを頂きました。曰く「ファンタジーだけではなく、もっと他のものも読んだ方が良い」とのこと。最近は歴史ものでもファンタジー要素を含んだものが多いですね。ライトノベルでも、ファンタジーを取り入れられている作品が圧倒的に多いかと思います。ついつい親しみやすいので、どうしても偏ったものを読んでしまいがち。ですが、たまには地に足をつけて、普段は読まないジャンルにも挑戦してみては？とのことでした。ちなみに、館長さんの高校時代は「途中で命を絶ってしまう」作家に人気があったそうです。今でもやはり、そういう人には興味が集まりやすい気がします。

他に読んだ作家として挙がったのは「池波正太郎」。作家については、「最初いやだと思って、途中から変わることがある」ということもお聞きしました。もしかしたら、今はあまり好きではないと思う作家の作品が、未来の愛読書になっているかも！ということですね。それから館長さんは「一人の作家を追いかけたりすることはない」そうです。今の自分が、今面白いと思うものを読む。これぞまさに読書の醍醐味。大事なことなんだなあと改めて感じさせられました。

本当はまだたくさんのお話をしてくださいましたが、今回は全部載せることができませんでした。読書に親しむ人の心は、いつも変わらないものなのだと、一番大切なのは何よりも楽しむということ。あたり前のことだけれど、大事なことを再確認させて頂いて、もっと本が好きになる時間でした。さあ、図書局員も負けていられませんね！（笑）最後に突然の訪問にもかかわらず、快く対応してくださった館長さん、スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

（3年 川村）



編集後記

テストも終わり、6月の半ばに入りました。テストが返却され始めていると思います。皆さんのテストの結果はどうでしたか？

次は「六花祭」の準備が始まります。1年生にとっては初めての六花祭ですので、先輩方を見本として頑張りましょう。また、3年生の皆さんにとっては最後の六花祭ですが、最高の思い出になるように頑張ってください。

（1年 谷口進吾）